



Monohakobi Techno Forum 2018

LiVE for Shipmanagerの 現在と今後の展望

2018年11月29日 広島会場 株式会社MTI 船舶技術グループ 三村 雄一





基調テーマ: Digitalization (AI、IoT、ビッグデータ)

目次

- 1. はじめに
 - NYKのIoTデータ利活用の取り組み
 - LiVE for Shipmanagerの機能と活用事例
- 2. LiVE for Shipmanagerにおける警報機能(第一のアプローチ)
 - ユーザー知見を用いたルールベースの警報機能
 - 重大事故防止警報機能
- 3. 異常自動検知機能の開発(第二のアプローチ)
- 4. まとめ

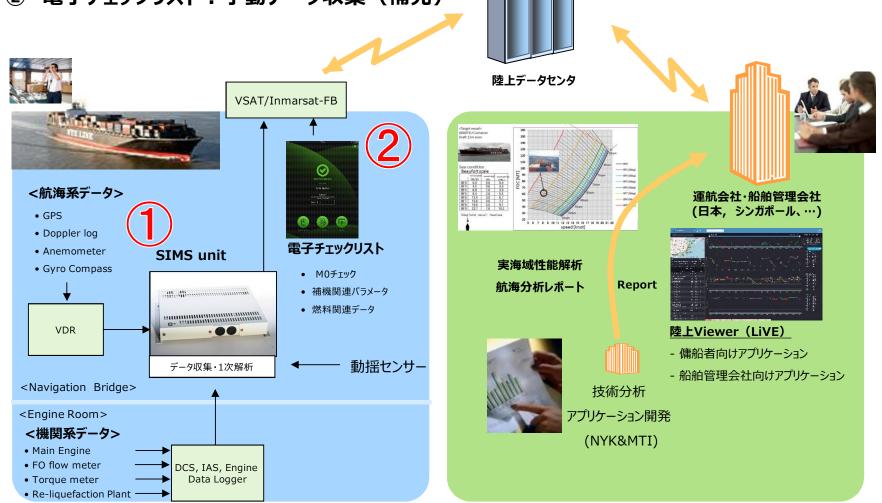




1.1 IoTプラットフォーム

① SIMS:自動データ収集(主)

② 電子チェックリスト:手動データ収集(補完)

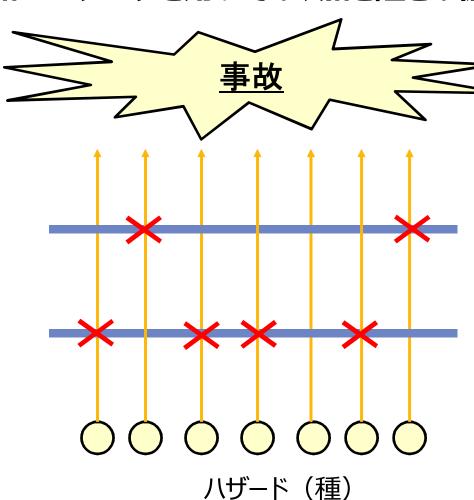






1.2 更なる安全運航実現に向けて

本船IoTデータを用いての、船と陸との協業体制



<新たな防護壁>

- LiVE for Shipmanager
 - 人の目による監視
 - ルールベース警報機能
 - 統計処理·機械学習警報機能

<既存の防護壁>

- ・本船保守・メンテナンス
- ・SMSマニュアル
- ·NAV9000等





1.3 LiVE for Shipmanagerとは

船主・船舶管理会社向けのアプリケーション

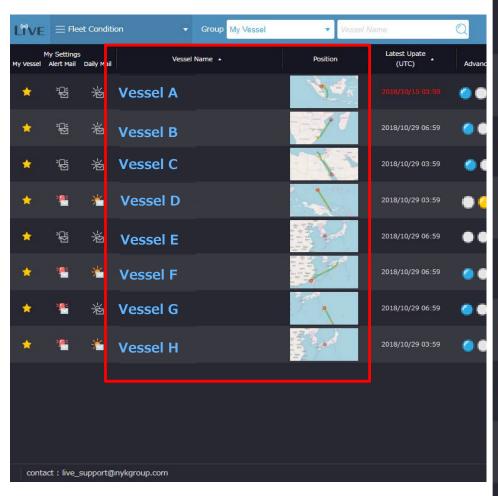


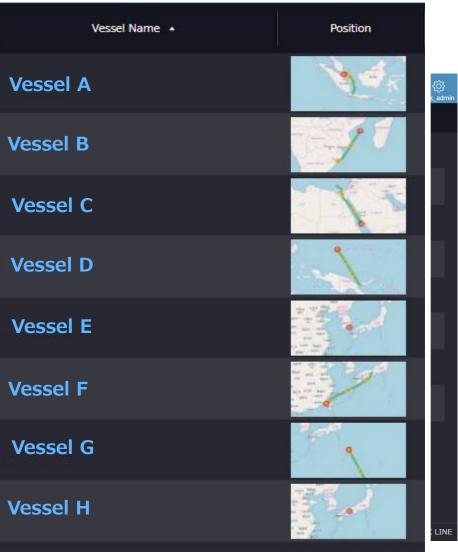




1.4 LiVE for Shipmanagerで実現できる事

① 管理船の状態をひと目で把握









1.4 LiVE for Shipmanagerで実現できる事

① 管理船の状態をひと目で把握







1.5 LiVE for Shipmanagerで実現できる事

② 個船の警報監視機能一時解除状況(Repose)把握







- ・メンテナンス時に、余計な警報がならないように、一部警報機能を一時的に止める事がある。
- ・メンテナンス終了後、警報機能を再作動させる必要があるが、それを忘れてしまった事例あり。
- →異常時に警報が機能しない!





1.5 LiVE for Shipmanagerで実現できる事

② 個船の警報監視機能一時解除状況(Repose)把握



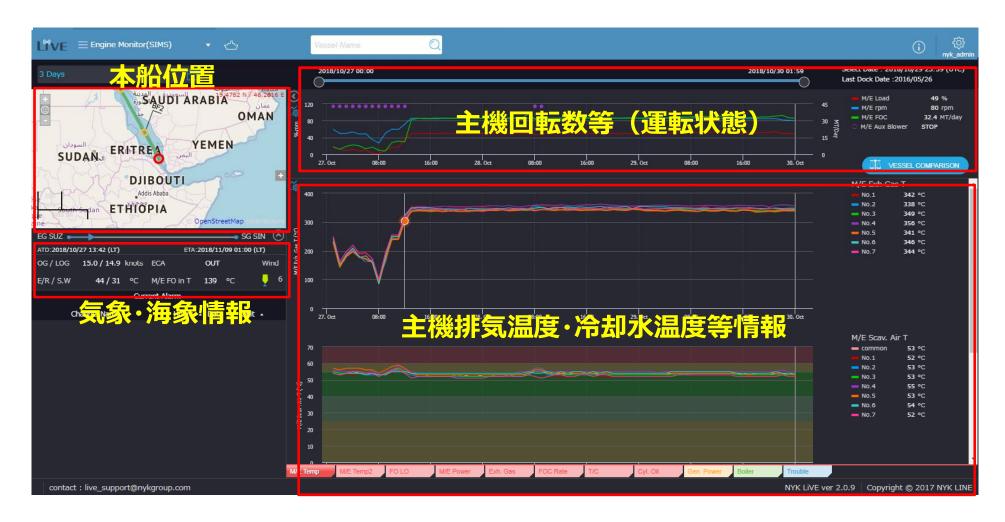






1.6 LiVE for Shipmanagerで実現できる事

② 個船の状態を網羅的に把握



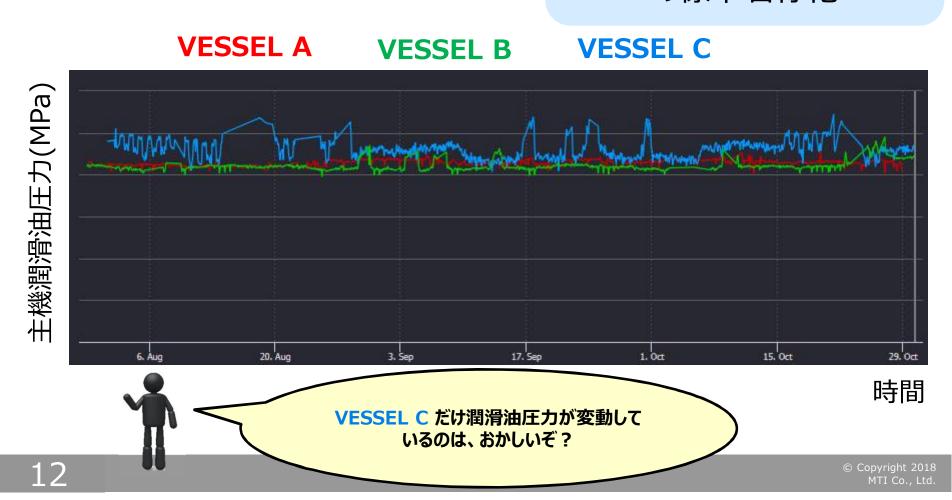




1.7 LiVE for Shipmanagerで実現できる事

③ 姉妹船比較による異常の見える化

180隻X800項目 =**144,000**項目 の標準名称化





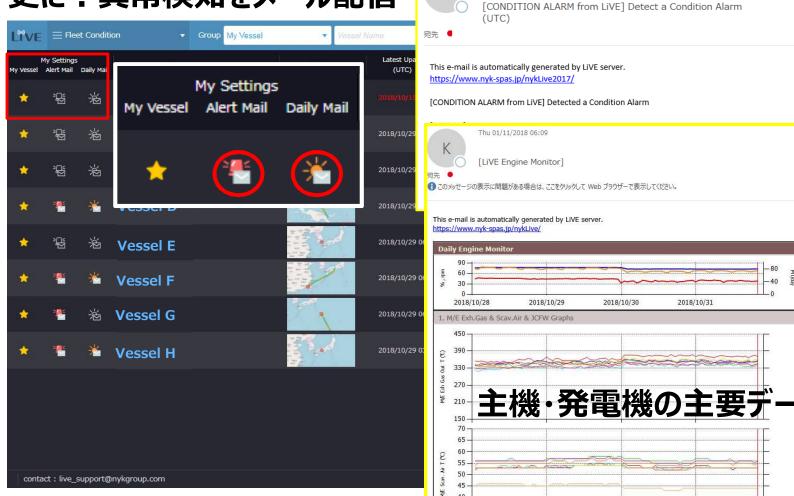


1.8 LiVE for Shipmanagerで実現できる事

Mon 29/10/2018 16:17

K

更に:異常検知をメール配信



- FOC (73.5 MT/day)

M/E Aux Blower (

— M/E No.3 Exh Gas Out T (357 ℃)

M/E No.4 Exh Gas Out T (354 ℃)
M/E No.5 Exh Gas Out T (343 ℃)
M/E No.6 Exh Gas Out T (339 ℃) *Lowest
M/E No.6 Exh Gas Out T (346 ℃)

M/E Scav Air T (common) (44 ℃)
M/E No.1 Scav Air T (53 ℃) *Lowest

M/E No.2 Scav Air T (53 °C) *Lowest

— M/E No.3 Scav Air T (56 ℃) *Highest — M/E No.4 Scav Air T (56 ℃) *Highest

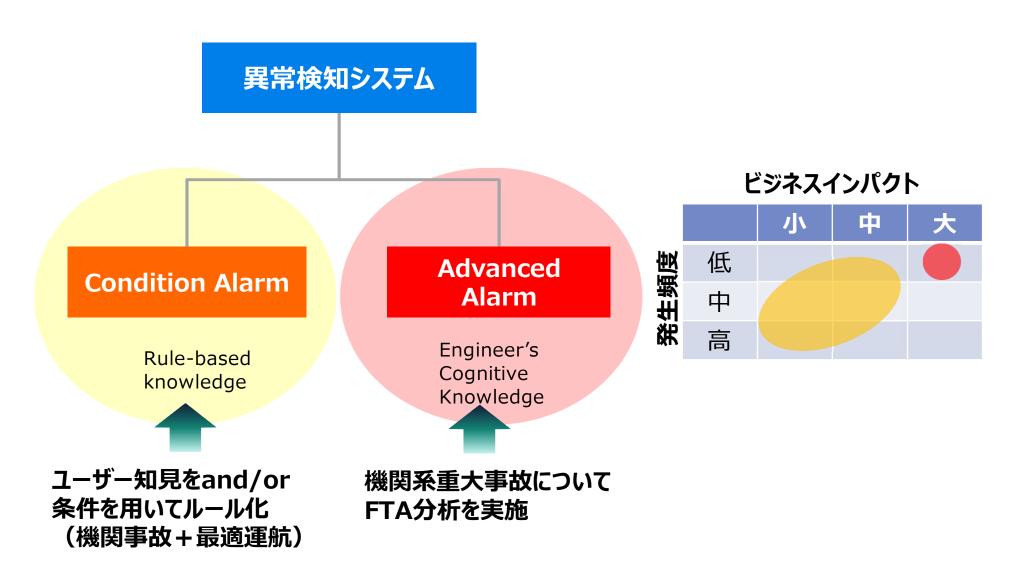
M/E No.7 Scav Air T (53 ℃)*Lowest
M/E No.8 Scav Air T (53 ℃)*Lowest

— M/E No.5 Scav Air T (55 ℃) — M/E No.6 Scav Air T (53 ℃) *Lowest





2.1 NYKの異常検知システム (現在)





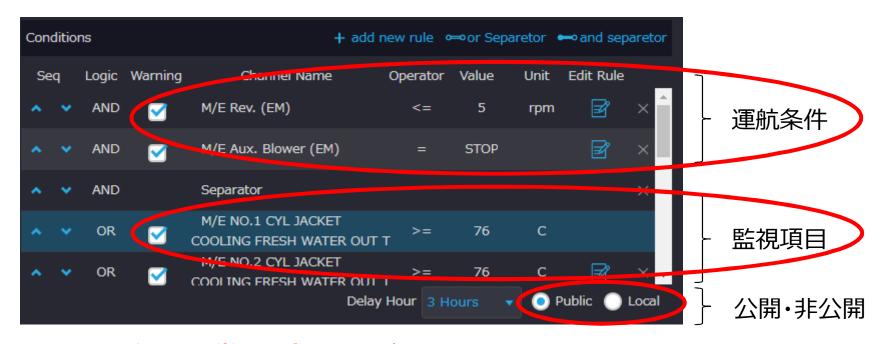


2.2 Condition Alarm機能

- ユーザー知見を共有し最大活用 -

- ・ 超減速オペレーション時の主機運転コンディションをモニタリングしたい
- ・ 停泊中の潤滑油ポンプの運用状況をモニタリングしたい
- ・ 発電機低負荷運転時の台数を最適化したい

Condition Alarm



- ・ ルールを**誰でも簡単に作成**することが可能
- ・ 個々人が作成したルールは、**簡単に他ユーザーとシェア**することが可能





2.3 Advanced Alarm機能

- 重大事故を発生させないために -

Advanced Alarm

機関重大事故について、事故発生 要因をフォルトツリーとしてモデル化、 SIMSから取得できるデータを用いて その予兆をスコアリングし、リスクを点数化

海技者の知見を FTAを用いてモデル化

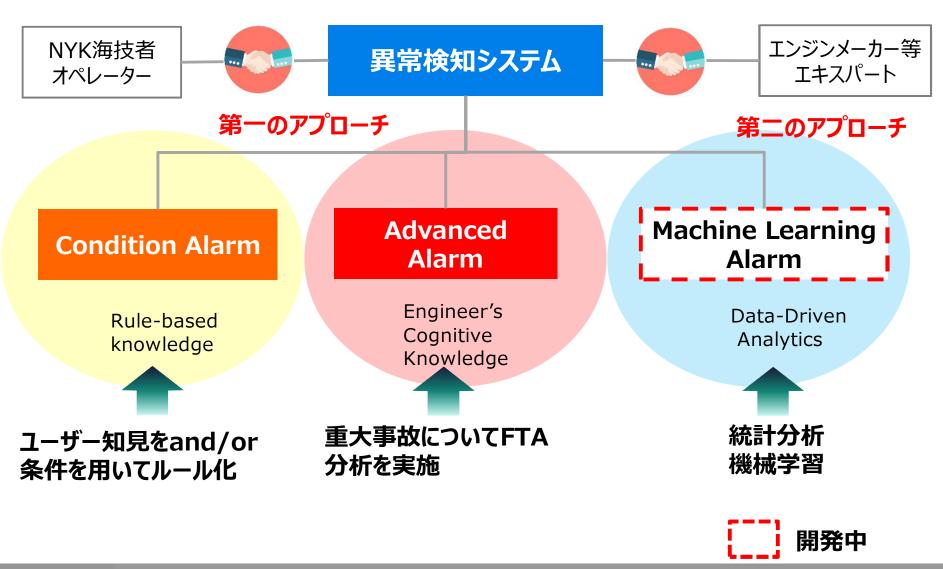
アラーム単体では 事故予兆ではない けれど・・・

二種類以上のアラームが同時に出ている・・・・○事故のリスクが上がってる?? じゃあ△△を注意して見てみよう





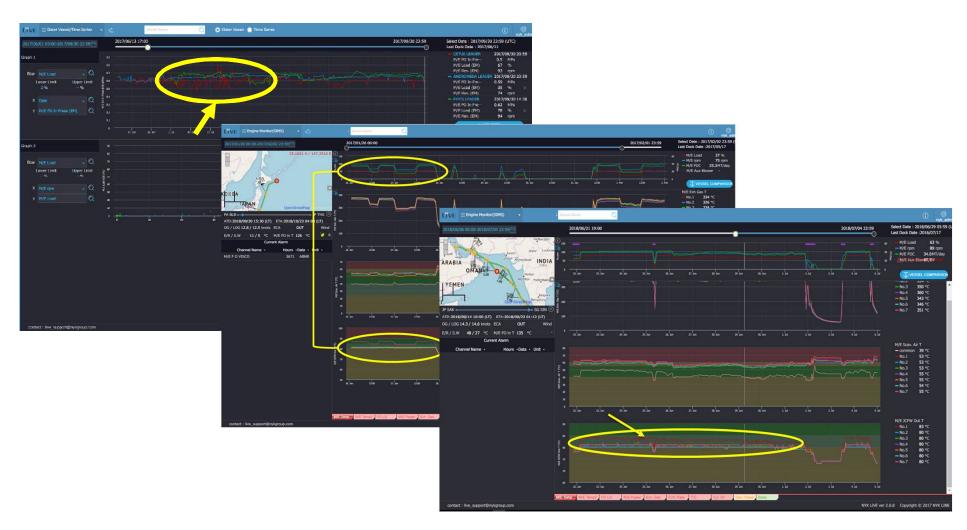
3.1 異常の自動検知へ







3.2 第二のアプローチができるようになった背景

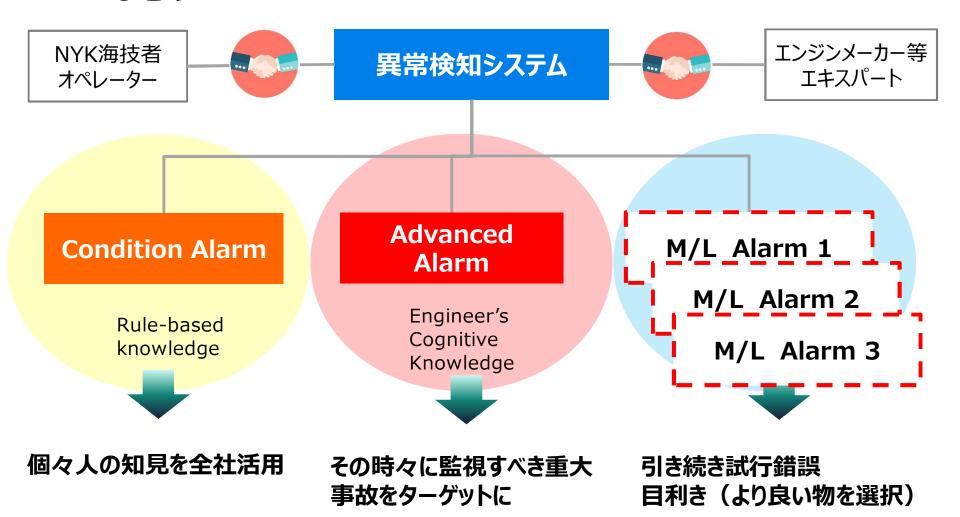


異常時のデータが蓄積された





4.1 まとめ









ご清聴ありがとうございました

